

3) 仮置マウンドの設置位置

仮置マウンドは、以下の条件を基に設定し、図-2.4.2.51に示す位置としました。

- ・捨石マウンドの法勾配は1:2とします。
- ・マウンドの最低厚を2.0mとして、石材量が最小となる水深を選定します。
- ・施工時において作業船航行やケーソン曳航に支障とならない位置とします。
- ・ケーソン仮置時及び荒天時においても限界波高（有義波高）以下となる位置であることとします。

ここで、10年確率波における有義波高の平面分布（SSW、S、SSE、SEの4方向における最大値分布）を図-2.4.2.52に示します。

前述の天端高の設定に用いた限界波高（表-2.4.2.14参照）は、この波高分布とマウンド設置位置から選定したものです。

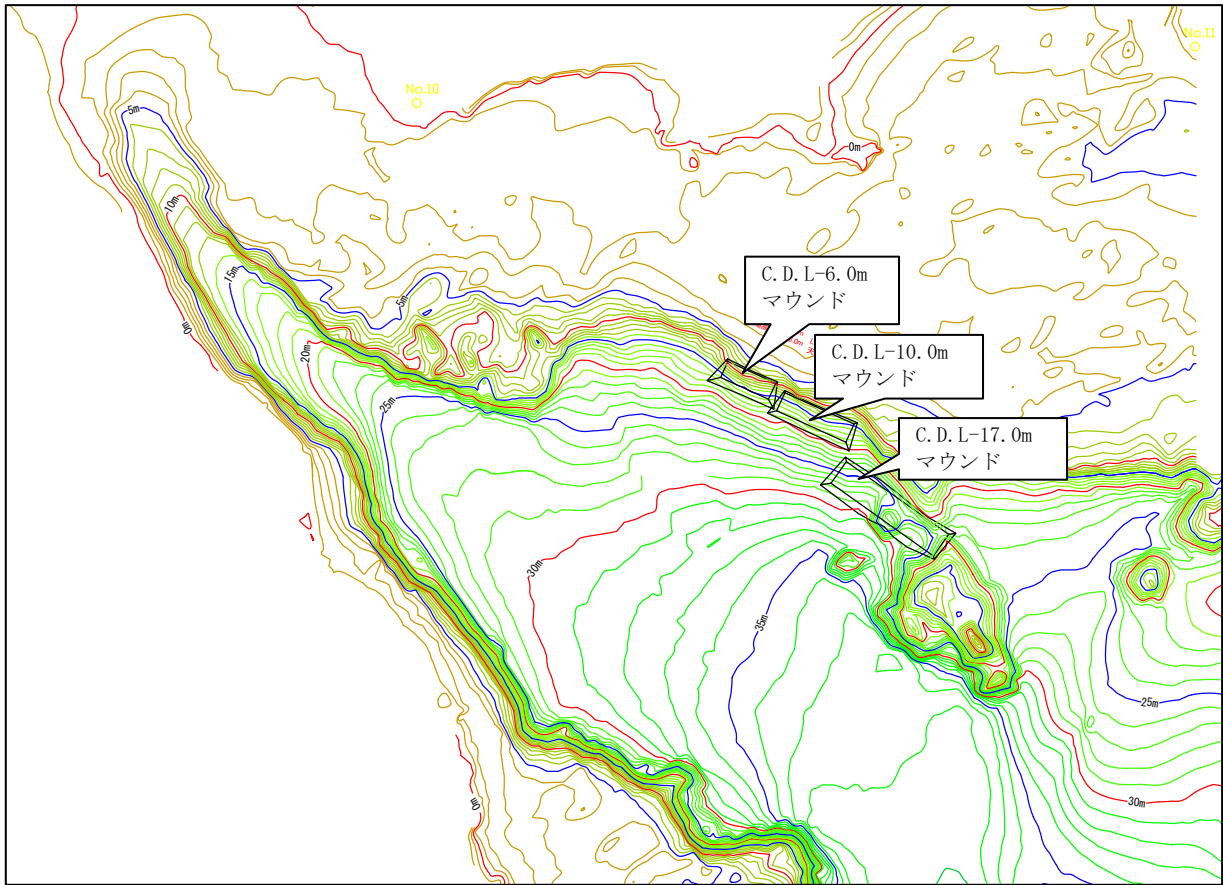


図-2.4.2.51 ケーソン仮置マウンド設置位置

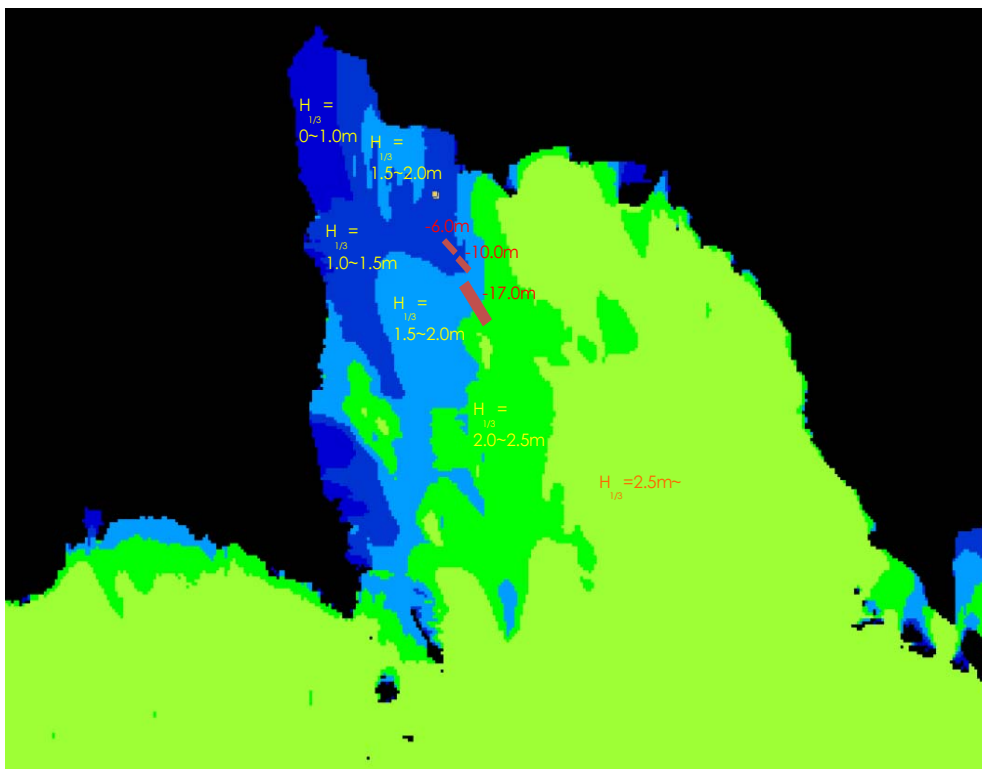


図-2.4.2.52 大浦湾内の有義波高分布
(10年確率波、SSW、S、SSE、SEの4方向最大値)

(4) 埋立土砂発生区域における土砂の採取

埋立土砂発生区域、工事中仮設道路及び美謝川の切替えに係る陸上工事による
改変区域の平面図を図-2.4.2.54に、断面図を図-2.4.2.55に示します。

埋立土砂発生区域における土砂の採取は図-2.4.2.53の施工フローにしたがい、
図-2.4.2.56に示すとおり、Aブロック→Bブロック→Cブロックの順に進めてい
く計画としています。また、各ブロックの面積、切土量、盛土量等は図-2.4.2.57
に示すとおりです。

なお、埋立土砂発生区域については、周辺の生態系への影響を低減することを
目的に区域内及び林縁部において、土砂採取後に緑化を実施する計画です。緑化
計画フロー及び緑化形成模式図を図-2.4.2.58及び図-2.4.2.59に示します。

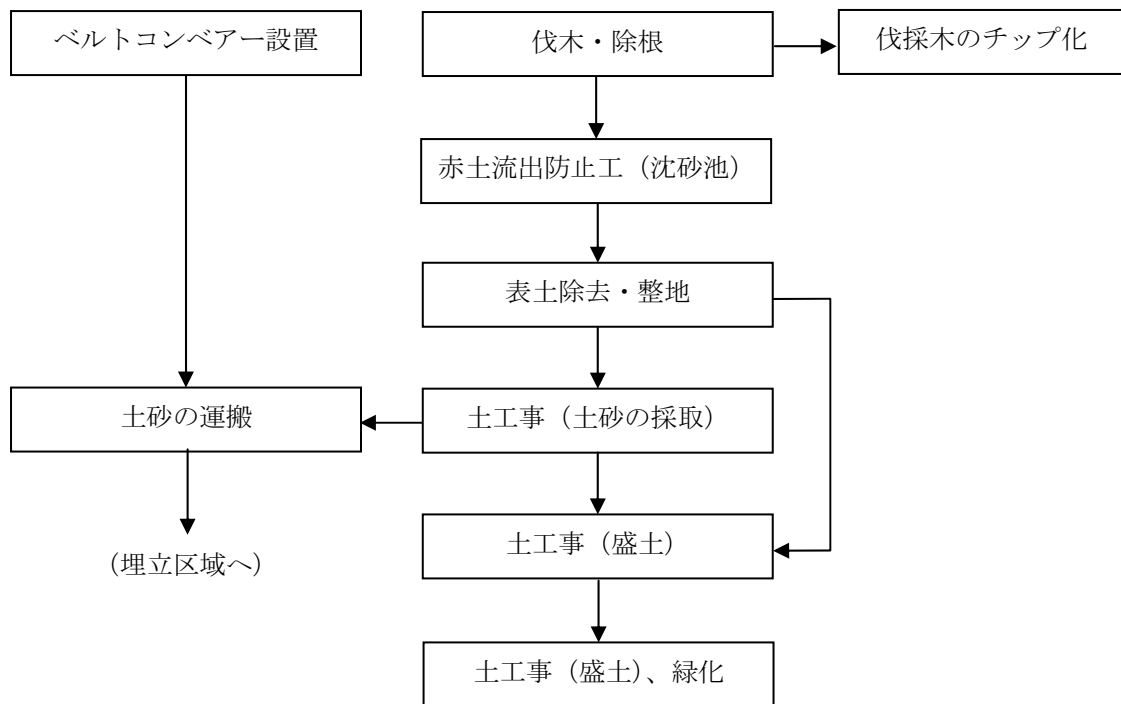


図-2.4.2.53 埋立土砂発生区域 施工フロー

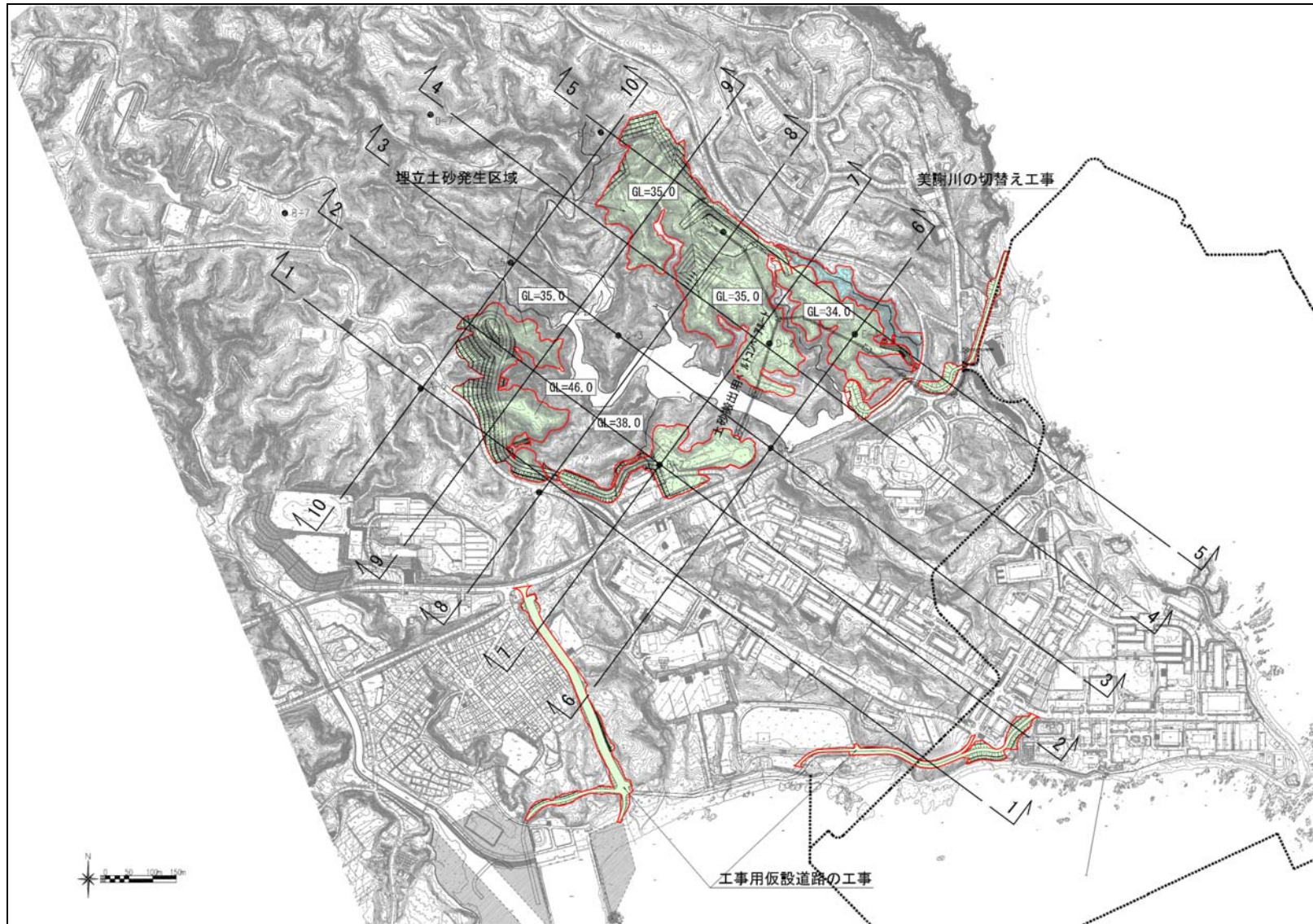


図-2.4.2.54 陸上工事に係る変更区域（埋立土砂発生区域、工事用仮設道路、美謝川の切替え）平面図

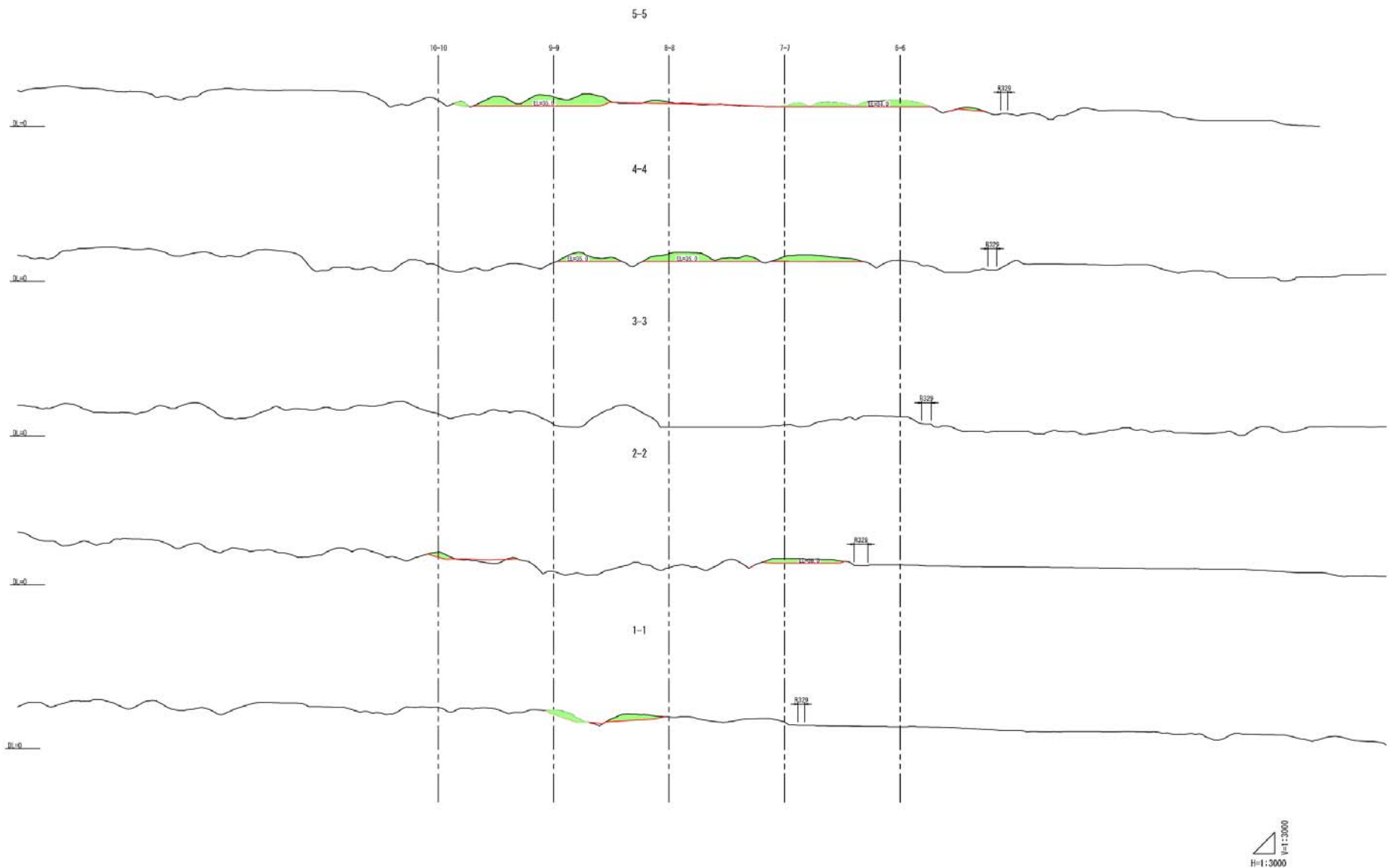
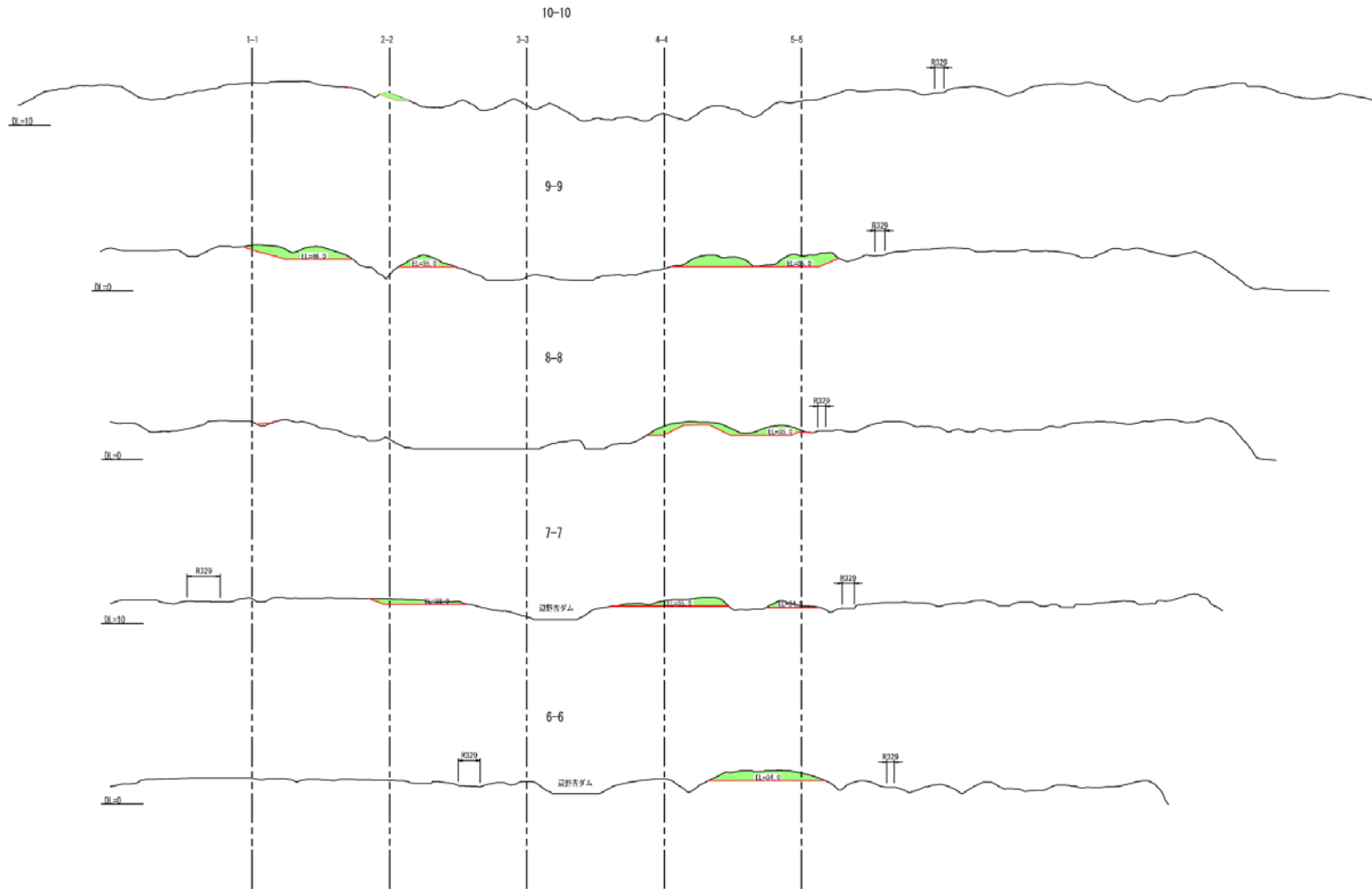


図-2.4.2.55(1) 陸上工事に係る変更区域（埋立土砂発生区域、工所用仮設道路、美謝川の切替え）断面図



H=1:3000
V=1:3000

図-2.4.2.55(2) 陸上工事に係る変更区域（埋立土発生区域、工事用仮設道路、美謝川の切替え）断面図

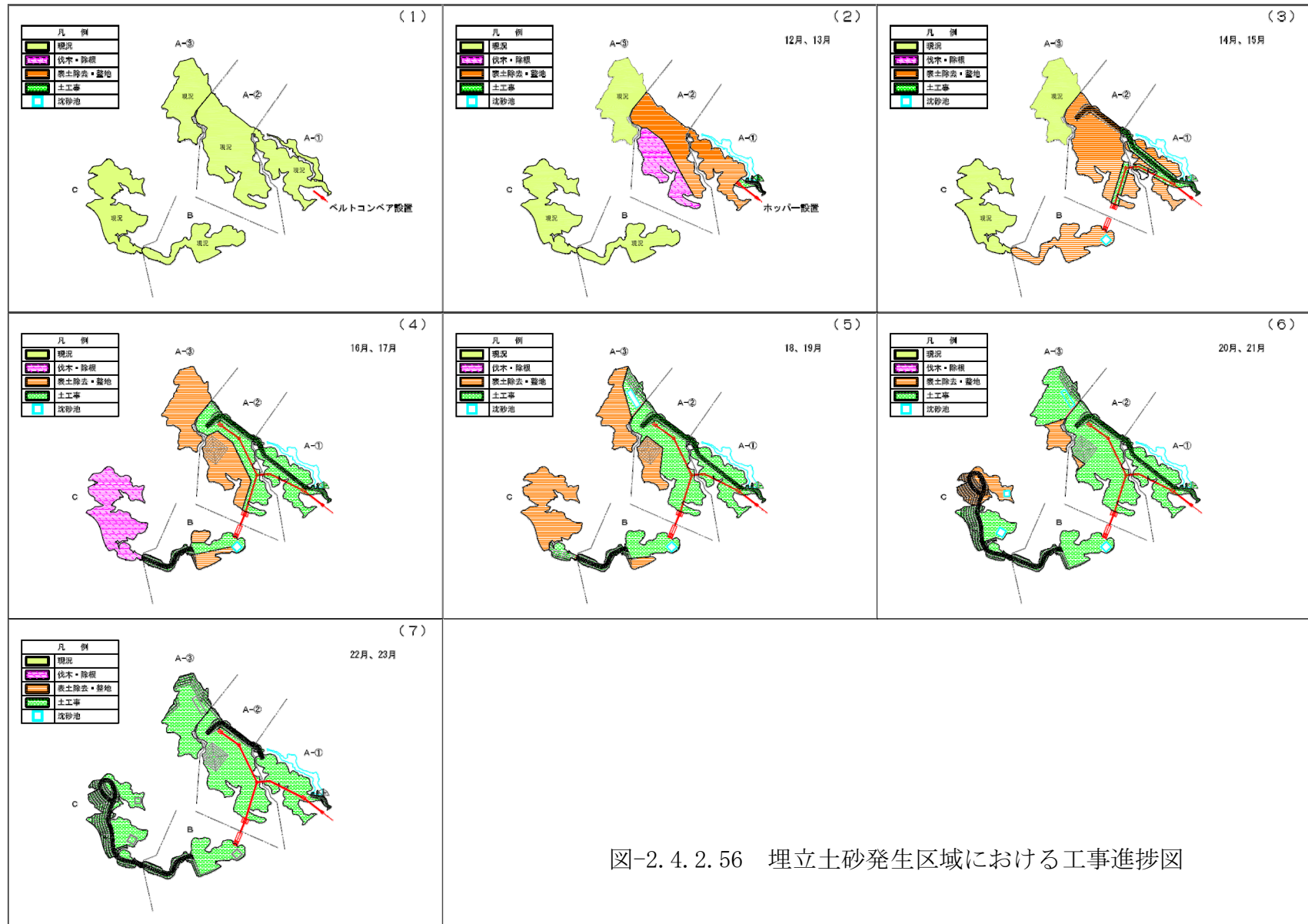
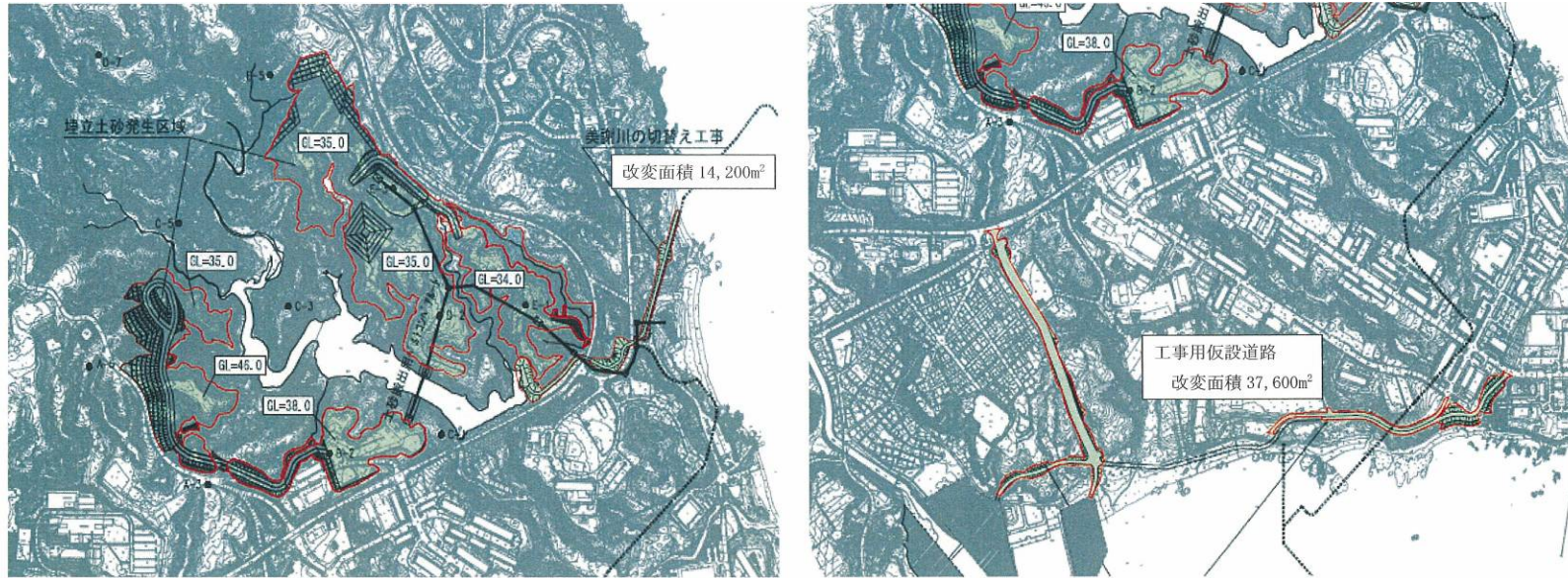


図-2.4.2.56 埋立土砂発生区域における工事進捗図



土砂発生区域改変面積および土量

種 別		単 位	Aブロック	Bブロック	Cブロック	計	留意事項
面 積	切土面積	m ²	193,800	38,300	66,700	298,800	■沈殿池として利用する面積 17,300m ² ■沈殿池含む面積 303,500+17,300=320,800m ²
	盛土面積	"	600	1,500	2,600	4,700	
	計	"	194,400	39,800	69,300	303,500	
切土量(地山)	粘性土	m ³	531,600	50,000	171,300	752,900	
	軟岩 I	"	1,079,300	101,500	347,700	1,528,500	
	計算切土量	m ³	1,669,000	163,000	535,700	2,367,700	
	平均表土厚	m	0.30	0.30	0.25		
	表土量	m ³	58,100	11,500	16,700	86,300	
計	"	1,610,900	151,500	519,000	2,281,400		
盛土量(締固)		m ³	900	12,800	9,100	22,800	
	計算盛土量	m ³	700	12,300	8,400	21,400	
	平均表土厚	m	0.30	0.30	0.25		
	表土量	m ³	200	500	700	1,400	
換算C		-	1.07	1.07	1.07		
盛土量(地山換算)		m ³	800	12,000	8,500	21,300	
発生土量	地山換算	m ³	1,610,100	139,500	510,500	2,260,100	

図-2.4.2.57 陸上工事における改変面積及び埋立土砂発生区域における発生土量

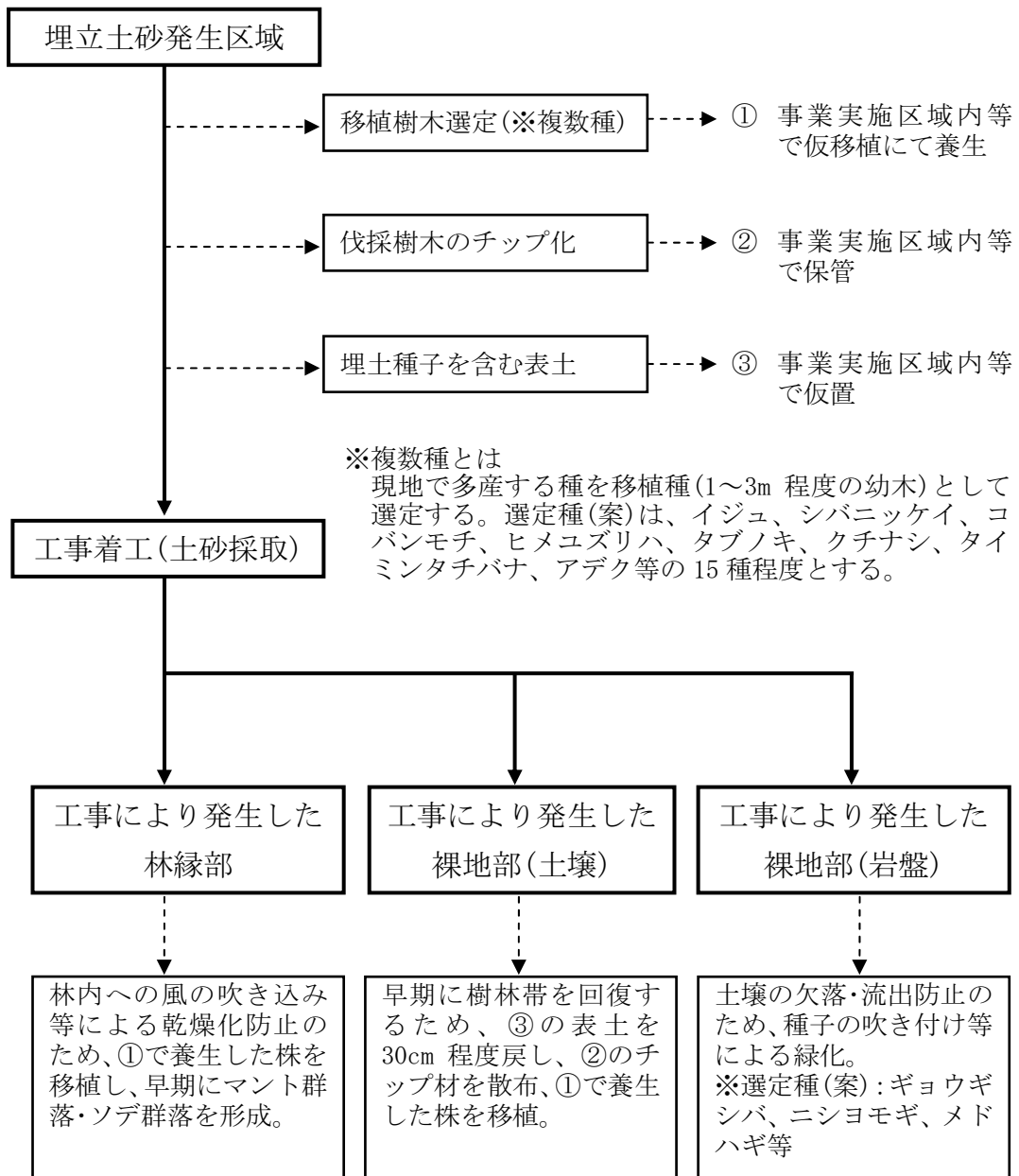


図-2.4.2.58 埋立土砂発生区域における緑化計画フロー

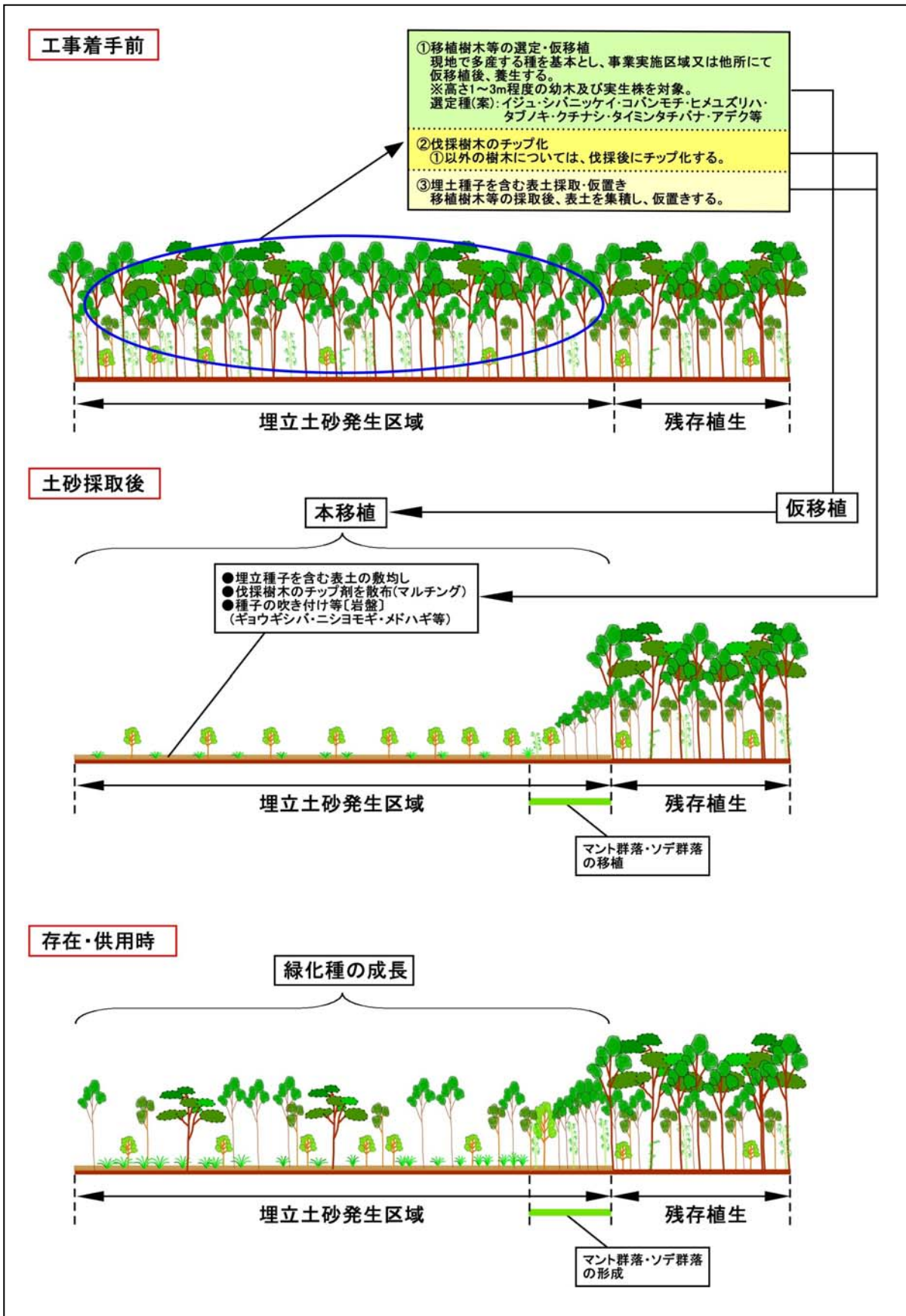


図-2.4.2.59 埋立土砂発生区域における緑化形成模式図

(5) 工事中仮設道路

工事中仮設道路の平面図を図-2.4.2.60に、標準断面図を図-2.4.2.61に、縦断面図を図-2.4.2.62に示します。

工事中仮設道路の工事は、A～C区間をそれぞれ図-2.4.2.63に示す順序で行います。施工フローは図-2.4.2.64に示すとおりです。

なお、工事中仮設道路は、工事終了後、一部（仮設道路A及びC）を除き撤去することとしており、撤去後は、現状の植生状況を参考に樹木移植による回復措置を講じます。

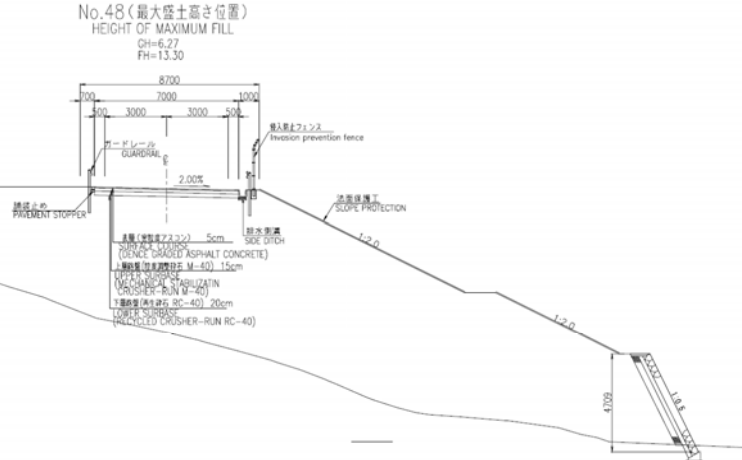
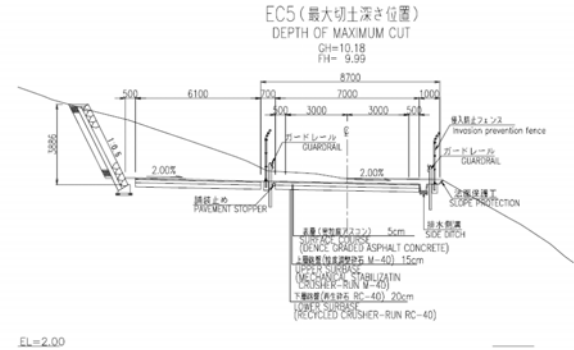
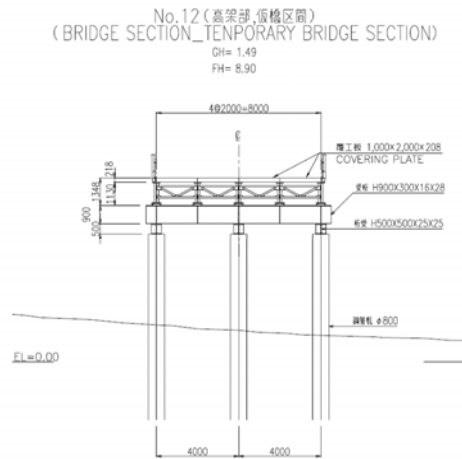
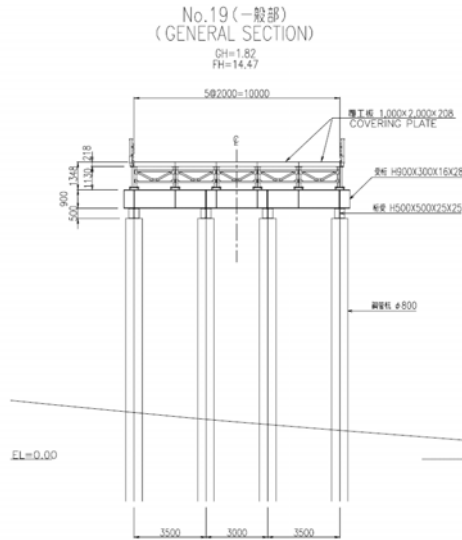
移植樹種については、現存植生図から、海岸性の植生としてオオハマボウ群落（主にオオハマボウ）、アダン群落（主にアダン）、海岸風衝低木林（主にハマビワ、インドシャリンバイ、クサトベラ）等が消失することから、これらを選定して自然林に近い植生を回復させます。なお、アダンの実は国指定天然記念物であるオカヤドカリの餌となり、本種の保護にもつながるものとして選定しています。

移植方法としては、工事着工前に移植対象とする種を仮移植（穂場）し養生します。工事中仮設道路を撤去した後に、仮移植地より本移植を実施します。



図-2.4.2.60 工事用仮設道路平面図

標準断面図
STANDARD CROSS SECTION
(A1:S=1/100, A3:S=1/200)
工事用道路B
CONSTRUCTION ROAD B

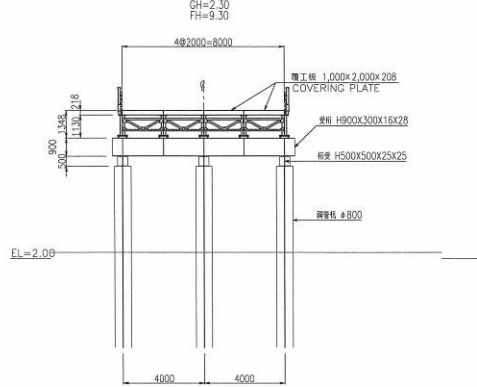


中視時点での想定であり、詳細については、建設計画が具体化した後となる。
It's assumption by present, details become after the building program materializes.

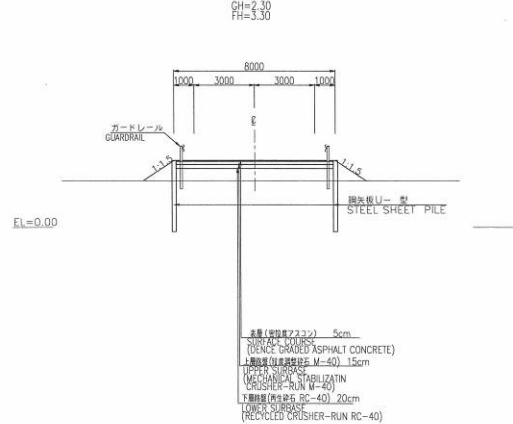
図-2.4.2.61(2) 工事用仮設道路標準断面図 (B区間)

標準断面図
STANDARD CROSS SECTION
(A1:S=1/100, A3:S=1/200)
工事用道路C
CONSTRUCTION ROAD C

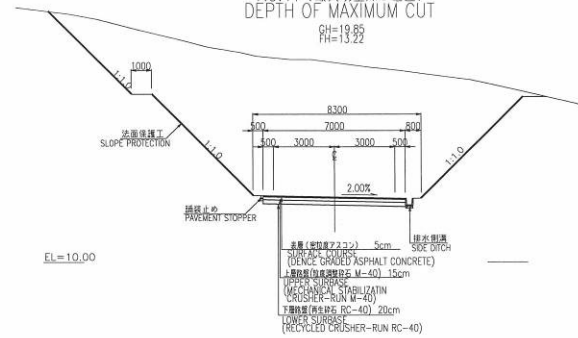
No.7 (高架部、仮橋区間)
(BRIDGE SECTION, TEMPORARY BRIDGE SECTION)



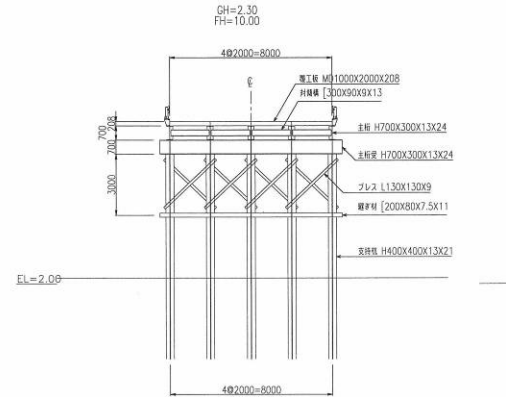
No.1 (鋼矢板式すり付け部)
(TAPER SECTION)



No.17 (最大切土深さ位置)
DEPTH OF MAXIMUM CUT
GH=19.85
FH=13.22

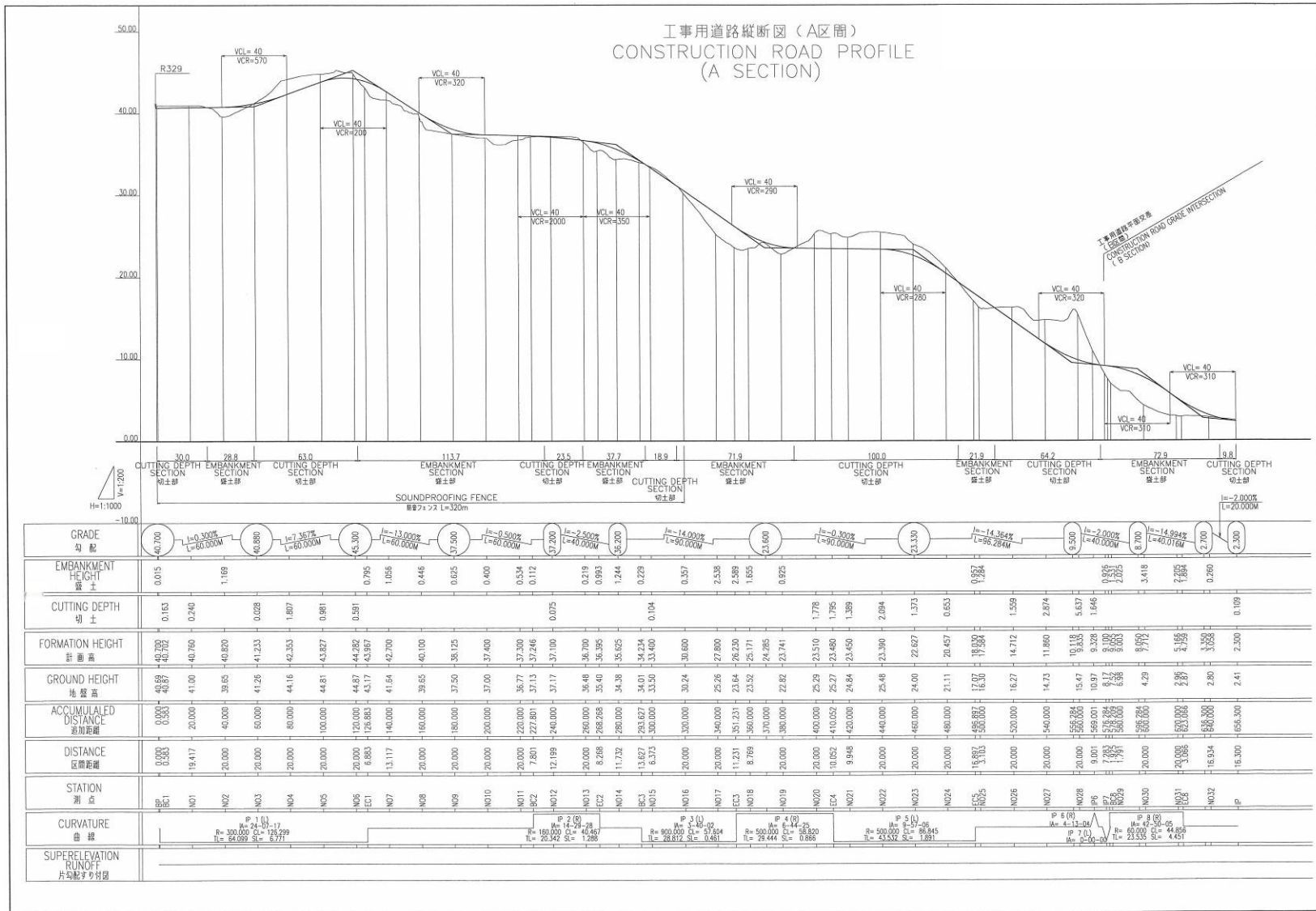


No.8 (一般部)
(GENERAL SECTION)



※現時点での想定であり、詳細については、建設計画が具体化した後となる。

図-2.4.2.61(3) 工事用仮設道路標準断面図 (C区間)



工事用道路縦断面図 (B区間) -1
CONSTRUCTION ROAD PROFILE
(B SECTION)-1

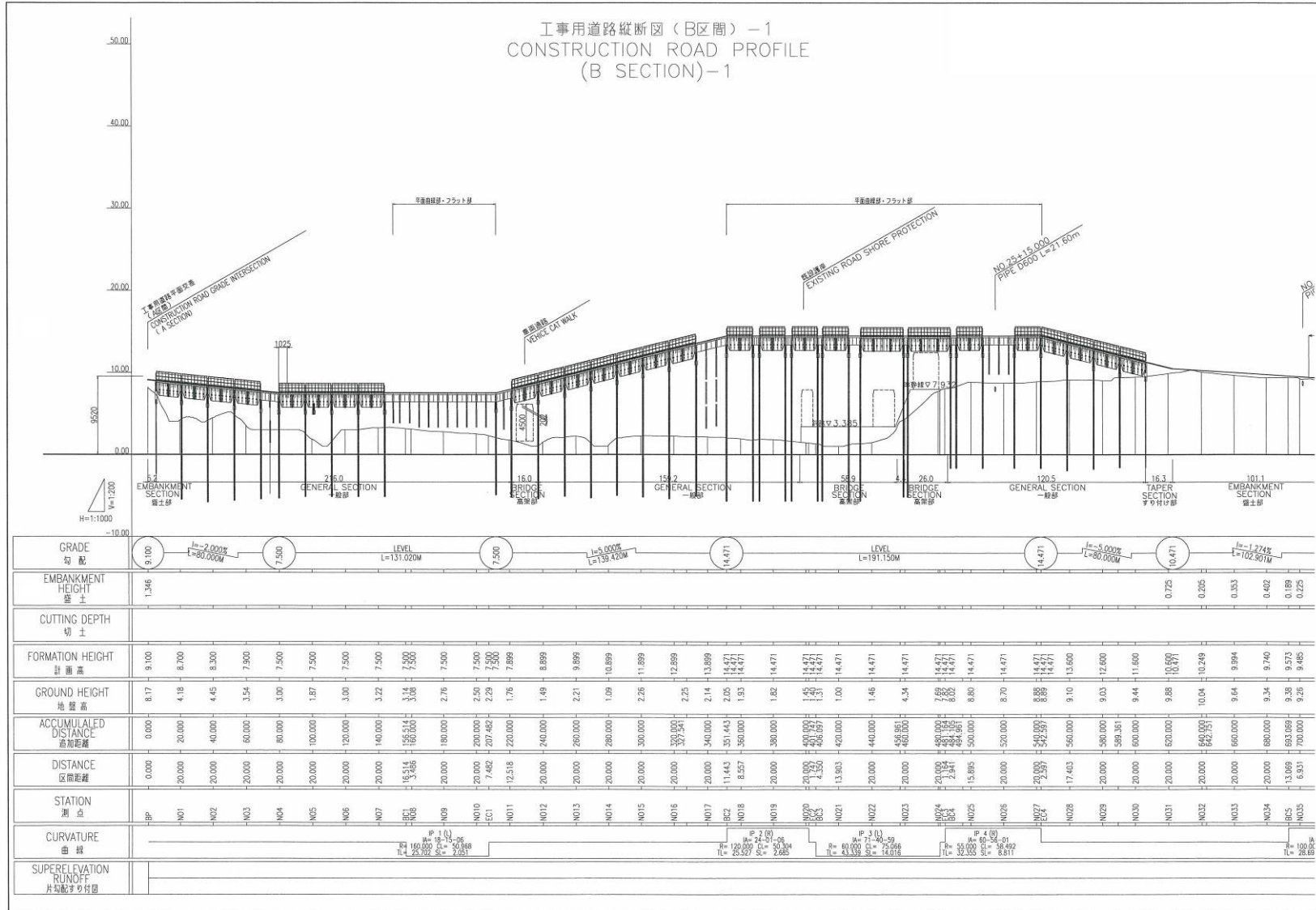


図-2.4.2.62(2) 工事用仮設道路縦断面図 (B区間-1)

工事用道路縦断面図 (B区間) -2
 CONSTRUCTION ROAD PROFILE
 (B SECTION)-2

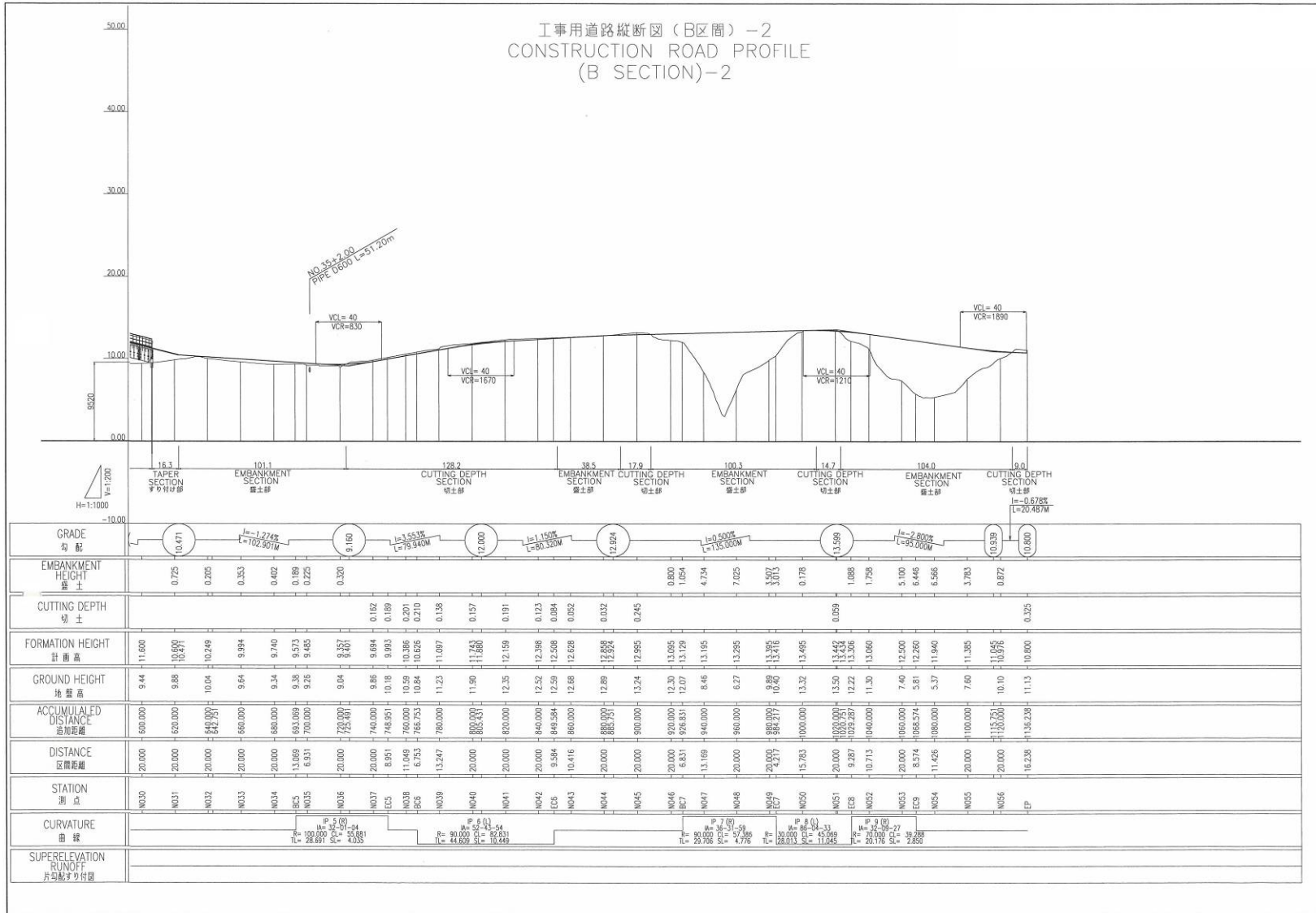


図-2.4.2.62(3) 工事用仮設道路縦断面図 (B区間-2)

工事用道路縦断面図 (C区間)
CONSTRUCTION ROAD PROFILE
(C SECTION)

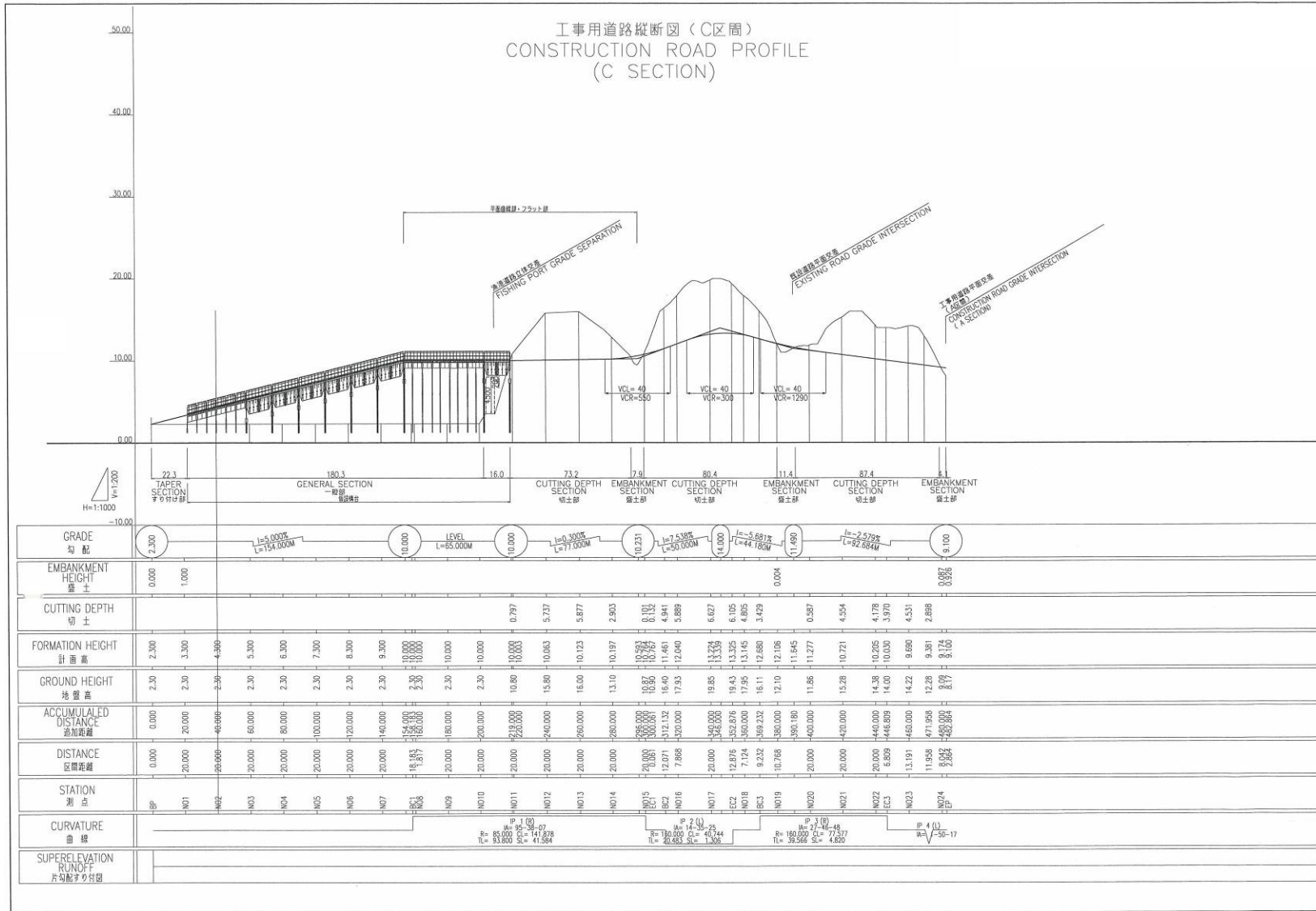


図-2.4.2.62(4) 工事用仮設道路縦断面図 (C区間)

工所用仮設道路縦断面図 (C-2区間)
 CONSTRUCTION ROAD PROFILE
 (C-2 ROUTE)

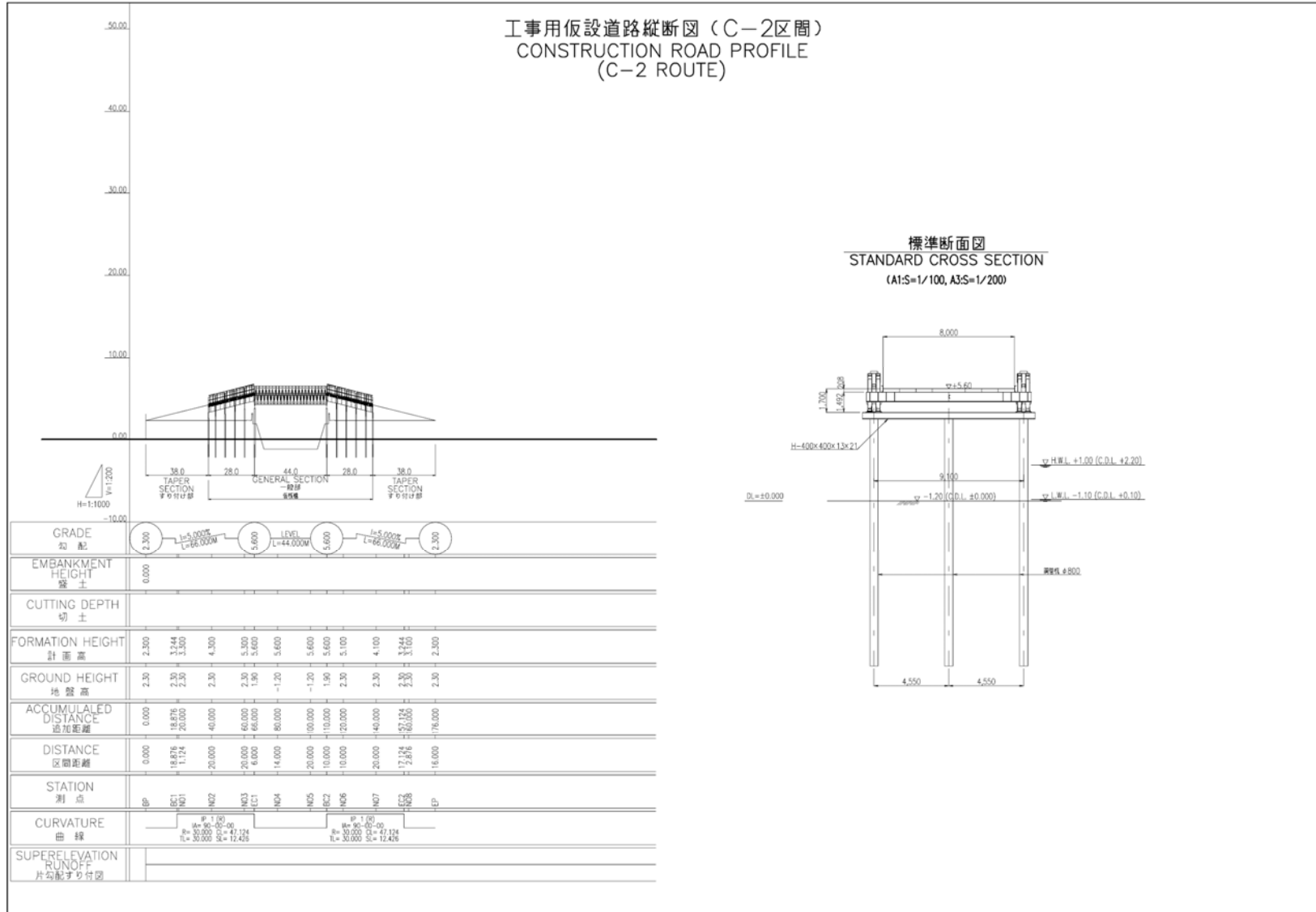


図-2.4.2.62(5) 工所用仮設道路縦断面図 (C-2 区間)

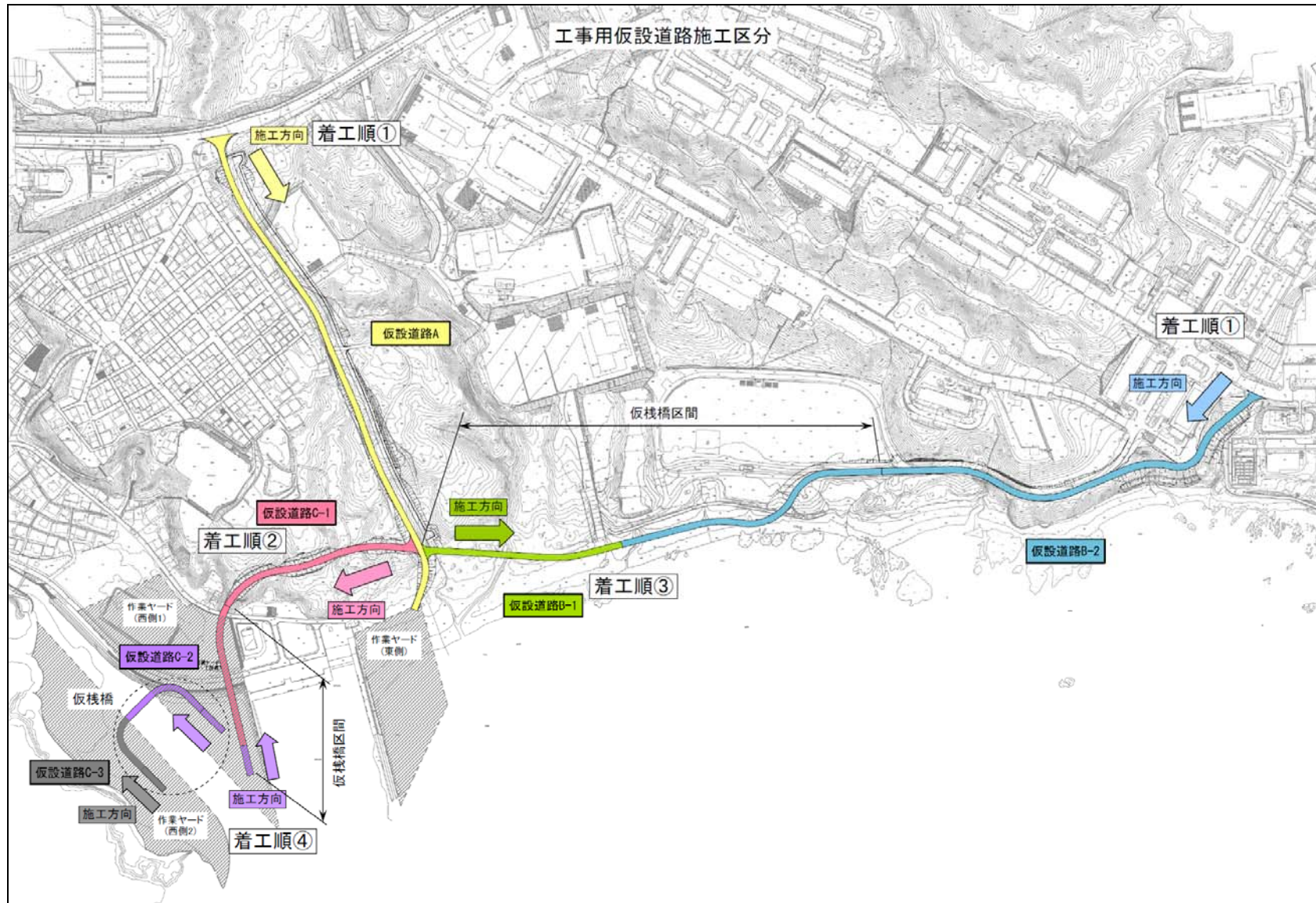


図-2.4.2.63 工事用仮設道路施工区分図



図-2. 4. 2. 64 工事中仮設道路施工フロー